AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録（2014.12）平成２５年度:70.

ストーマセルフケア確立を目指す患者への看護～患者の理解と目標共有の重要性についての振り返り～

重信 亜美, 野地 真記子, 印藤 未里

ストーマセルフケア確立を目指す患者への看護
～患者の理解と目標共有の重要性についての振り返り～

旭川医科大学病院　７階西ナースステーション　　〇重信　亜美、野地　真記子、印藤　未里

【はじめに】

ストーマセルフケア確立を目指す上で、行動変容促進に重要な看護について検討した。

【対象】

70代男性・Ａ氏。膀胱腫瘍、回腸導管造設。１人暮らしであり、「自分のことは自分でする」という信念を強く持っていた。

【結果】

Ａ氏ははじめ、ストーマケアに参加しようとしなかった。Ａ氏の思うようにケアが進められるよう、Ａ氏主体でストーマケアスケジュール表を作成した。看護師はできていることを褒め、ケアの振り返りをＡ氏と一緒に行い、退院前にはストーマセルフケアを確立できた。

【考察】

ストーマセルフケア確立を考える際は、まず患者の自主性の尊重、目標共有が重要であり、ストーマケア実践の中では患者が自己効力への気づきを高められるようなケアが、ストーマセルフケア確立に必要である。常に患者は何を感じ、求めているのか、患者の視点に立って考え、共に歩んでいく姿勢が看護師には求められている。その過程を共有し、患者が「できる」と感じた時を行動変容へつながるポイントととらえ、介入していくことが重要であると示唆された。